

金沢学院大学附属高等学校

金沢学院ラーニング部



門松づくりの工程のひとつ「たけの油うかし（光沢だし）」の様子

活動期間 2019年11月～（年1回ほど活動）

構成人数 高校生10名

SDGsテーマ



推薦メッセージ

金沢学院大学附属高等学校の金沢学院ラーニング部では、様々な体験活動を通してSDGsに取り組んでいます。

特に門松作りを通じた活動は、4年目となり継続性が高いです。

「学び」と「SDGs」を両立した活動を推薦します。

金沢学院大学附属高等学校 進路指導課長 北角 巖

活動内容

金沢学院ラーニング部は「体験しながら学ぶ」をモットーに、様々な体験活動を通して「学び」を実現し、「生涯学び続ける人間となる」を目標に活動を行っています。

最近行っている活動内容としてはメダカの養殖があります。近年、個体数の減少を続けるメダカを保護するため、温度を中心とした最適な生育環境や産卵する条件などをさぐり、卵から成魚になるまでメダカを育てています。育てたメダカは川へ放流することで絶滅の危機から守ったりしています。

また農業人口が減る中気軽にプランターで栽培できる野菜はないかを探ったりしています。まずはじゃがいも栽培から始めましたが1年目のきたあかりの栽培には成功したのですが、2年目のインカのめざめは害虫の影響で栽培に失敗しました。

他にもプランターで育てられる野菜を探し、発信していくことで今後起こりうるであろう食糧危機を鑑みた活動をしています。

活動の中でも最も長い間継続しているのが門松作りで

す。荒廃した放置竹林は環境問題の一つとなっていますが、それを打開するために竹を伐採し、山を守り、伐採した竹から門松をつくっています。

廃れつつある門松文化にも一石を投じ、日本文化の継承も行っています。



竹の伐採

笑いづくり



完成品

01. 活動をはじめたきっかけ

自由な活動を行うなかで、
「学び」だけではなく「社会貢献」に
参画したいという思いが強くなりました。

金沢学院ラーニング部では自由な活動を行っていますが、活動していくうち我々だけの「学び」だけでなく社会貢献活動にも参画したいと思うようになりました。
そこで真っ先に思い付いたのが、学校のある金沢市にある放置竹林の問題でした。

また、田んぼがなくなっていく中レッドリスト化されていく生物の種の保存や農業人口の減る中食料自給率の低い日本でどのようにこの課題に対峙していくかなどを考えていくうちに今の活動に至りました。

02. 活動から学んだこと・感じたこと

生物や植物を育てることの難しさから
生命の尊さを感じました。

また、文化や歴史も学ぶことができた。

生物や植物の生育環境を探る中で、育てることの難しさや育てる中で（死なせたり枯らしたりすることで）生命の尊さを感じました。

また門松作りでは、竹林の中で竹にまつわる様々な知識（竹の成長速度の要因や竹の花が咲くこと）を得たと同時に竹を切ることの大変さから自然の偉大さを知りました。

伐採した竹から門松を作る際には門松文化（なぜ竹を斜めに切るのか、門松は何のために置くのか、なぜ松なのに竹なのかなど）に触れ、歴史も学ぶことができました。

03. 継続するためのこれからの工夫

学校のInstagramなどの広報活動を積極的にを行い、活動拡大に務めたい。

活動を拡大していくために広報活動を積極的に行っていきたいと思います。

学校のInstagramでの投稿などの頻度を高めることで学内外問わず認知度が高まると思っています。また、外にも出て、子供たちに出前教室を展開していきたいです。

コロナ前は一度ミニ門松作り教室を行ったのですが現在できてないので、メダカの飼育やプランター栽培のコツなども含め行いたいです。

また、外部の各専門家にも依頼し、活動に参加してもらい活動拡大に協力してもらおうと思っています。

活動の略歴

2019・2020・2021・2022 年 12 月 門松作り

2021・2022 メダカの飼育

2021・2022 ジャがいものプランター栽培

2020 廃盤となったカードゲームクリプトの復活